



イルウェス



アルタ

あらすじ

金色の瞳と花が咲いたような痣のある白鹿・アルタは、命を助けてくれた兵士・イルウェスと恋に落ちる。だが、白鹿は王族に嫁ぐ宿命だった。イルウェスと引き離され、王子・トグトと番になりながらも、アルタはイルウェスが迎えに来てくれると信じ続けていた。だが、連絡が取れないまま3年が経ち、極北で再会したイルウェスは記憶を失っており…！

オルツイイ様
いいですか

狼がいる
とはいえ

何が起こるか
わからないの
ですから！

昨日も申し上げましたが
あんなに大衆がいる中で
お一人でどこかへ行かれては
困りますよ

どこかに行かれる際は
必ず護衛のものを
何人かお連れください

ここは王宮内とは
違って危険が
多いのですよ！

万が一、事件や
事故に巻き込まれ
でもしたら…

聞いて
らっしゃいますか？！

うん…



イルウェスが
いた——…



死んで
いなかった



動いてた

生きていた



手紙をくれなかったのは
事故に巻き込まれて
いたから

よかった…

嫌われたわけじゃ
なかった

オオルツィイ様…？

だってまだ、
こんなにも
好きなのに

三年間、忘れようと
していたのが
馬鹿みたいだ
忘れられるはずない

イルウエスともっと
話したい…
あの後全然
話せなかったし…

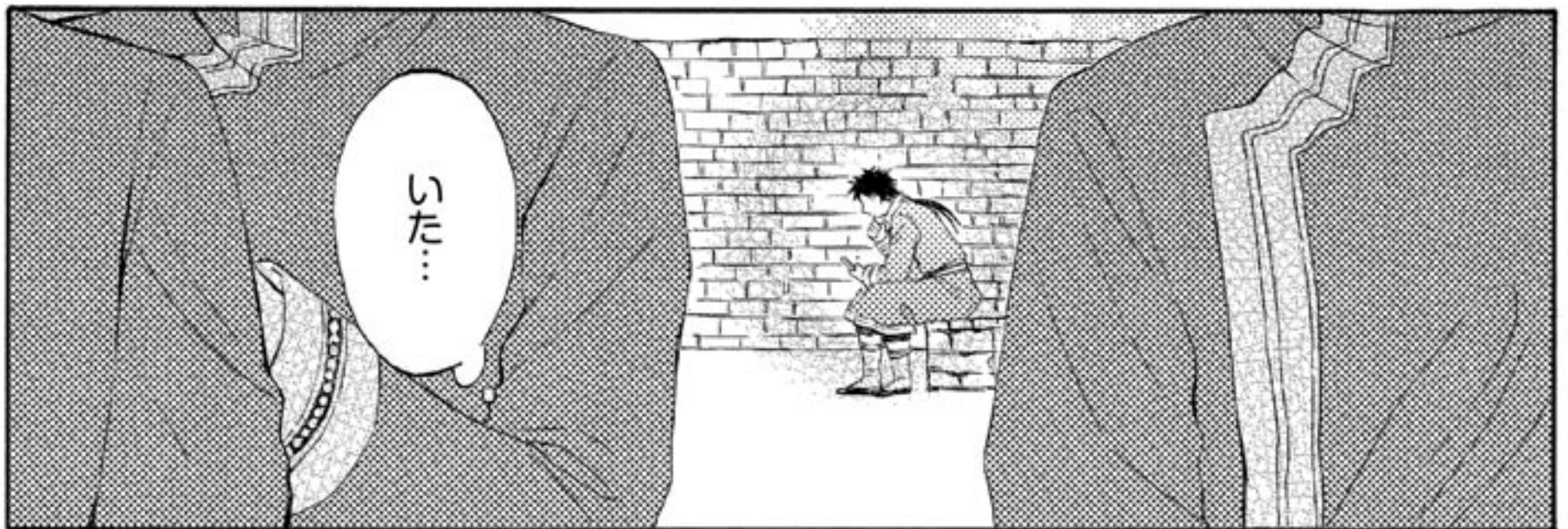
どこに
いるんだろう…

オオルツィイ様
どこに行かれ
るんですか？

村を見て
回ってくる。
顔見せも
仕事のうちでしょ

そうですが…







こちらこそ
その、急に話し
かけてしまって
ごめんなさい

昨日は大変失礼な
態度を取ってしまい
申し訳ありませんでした

スリキッ

白鹿様…



昨日言っていた
記憶がないって…
本当ですか？

全部…？

何も覚えて
ないの？



いえ…事故にあった
当初は自分の名前も
わからなかったんですが

最近だいたい
思い出して
きているんです

…自分がどこで
生まれ育ったのか

どうやって
生きてきたのか…
昔の友人のこと…

ここに来る
前のことは…？
ここにきた理由も
思い出した？







…思い
出せないんです



いくら考えても
思い出せない



記憶を無くす前の自分が
いったい誰に向けて
手帖に書き留めていたのか



それでも時々、ふと
「あ、伝えたいなあ」と
思うことがあって



筆を
とるんです



顔も思い出せない
相手なのに

それでも
書かずには
いられなくて…



手帖の相手は
記憶を無くす前の
私にとって

とても大切だった
人なんだと
思います



大切な…



顔は思い出せ
ないんですけどね
ほらここに



名前が書いて
あるんです